

原 著

看護のアイデンティティー、最終章： 看護学生、新人看護師、年長看護師3集団の看護観の 分析より得られた教育上有用となりうるキーワード

工藤 二郎* 小田日出子* 上野 恵子** 窪田 恵子*** 伊藤 直子*

〈要 旨〉

この研究は、看護職のアイデンティティーを明確にして看護学生を教育する目的で行った。我々はこれまでに看護職のアイデンティティーについて学生と新人看護師、年長看護師のアンケート結果を9報にわたって分析してきた。この最終報告では、5カテゴリーのうち残りの第3、第4、第5カテゴリーの看護学生、新人看護師、年長看護師、3集団の看護観の統計学的分析を行った。

第3カテゴリー、「他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動」の36キーワードで学生と新人看護師の間で有意差があるものは、学生が重視する「感情コントロール」のみであった。一方、学生と年長看護師の間で有意差のあるものは、年長看護師が重視する「相手の人格の尊重」「他職種との連携」の二つと学生が重視する「感情コントロール」であった。

第4カテゴリー、「専門的な看護技術」の24キーワードで、学生と新人看護師の間で有意差があるものは、新人看護師の重視する「了解なしの行為をしない」と、学生の重視する「環境を整える」「スキンシップを用いる」の二つであった。学生と年長看護師の間で有意差のあるものは、年長看護師が重視する「疼痛を緩和する」と学生が重視する「感染予防」であった。

第5カテゴリー、「専門倫理的な態度・行動」では学生と新人看護師の間で有意差のあるものは、新人看護師が重視する「個々の患者に合わせた対応」と学生が重視する「医師、患者の架け橋」であり、学生と年長看護師の間で有意差があるものは、年長看護師が重視する「患者の感情や話しを受け止める」であった。

全てのカテゴリーの解析結果から得られた看護師達が重視した31キーワードは看護のアイデンティティーの核をなすものと考えた。また、新人および年長看護師が学生と有意差をもって重視する8キーワードは看護学生の教育に有用であると考えた。

キーワード：看護職、アイデンティティー、看護教育、看護学生、看護観の質問

はじめに

看護職の人は看護という仕事の目的や方法、倫理観の全体像を保持し、それらに基づいた職業アイデンティティーを各個人で持ちながら職務を遂行していると考えられる。他の職業人が持ちえないまとまりとしての職業概念がその看護師を思考させ、行動させているであろう。このようなアイデンティティーの存在を想定し、明確化していく目的でこの研究は行われた。

そしてさらにそれを何らかの方法で学生の教育に役立てようとするのもこの研究の目的である。

アイデンティティーの要素を細分化したり、重みを付けて配列することには困難が伴うが、看護学生や看護の経験によってグループ分けされた看護師達個々人の価値観を数値化し、グループ間で比較することにより、学習や経験によって発達していく看護師のアイデンティティーを客観的に観察することができる。ここでは、時代や地域、文化の相違を超え、看護師に存在

* 西南女学院大学保健福祉学部看護学科 教授
** 西南女学院大学助産師別科 講師

*** 福岡女学院看護大学 教授

するアイデンティティーをつきとめていくという意味をこめ、看護のアイデンティティーと総称している。

我々はこれまでに看護のアイデンティティーに関する9つの報告を行ってきた。¹⁾⁹⁾ それらは看護に関するキーワードの選択と質問表の作成に始まり、看護師の資質、個人的行動、社会的行動、看護技術、看護倫理の5カテゴリーにおける看護師と学生との価値観の相違を検討したものであった。最近の2報は、5カテゴリーのうちの資質と個人的行動の2範疇のキーワードを看護学生、新人看護師、年長看護師の間で統計学的に分析したものであった。⁸⁾⁹⁾ その2報により、看護師には学生にはまだ備わっていない核 (core) となるような看護師としての価値観が成長してくることが推察された。学生に比べ、新人看護師と年長看護師で共に価値観がきわめて高くなるキーワードが発見されたからである。加えて、当初に抽出された152キーワードがあらわす概念は、多くは時代や地域によって変化するものの、核となる重要な概念は変化しにくく、社会の進歩により看護職としての新たな価値観が加わってくるに過ぎないとも考えるようになった。我々は、核となるいくつかのキーワードの表す概念は学生にも看護師にも重要なものと考えている。

この最終章では、5カテゴリーのうち残りの3カテゴリーの分析結果を報告する。全カテゴリーから看護師が高得点で選んだ多くのキーワードは、看護という仕事をあらわすものであろう。また、学生がそれほど重視せず、新人看護師や年長看護師が非常に高く評価する項目は、看護教育に役立つ可能性をもつと考えられる。これらの点について考察する。

方 法

1) アンケートとその中の各キーワードの配点法及び操作

アンケートの内容や送り方は既に報告した¹⁾⁶⁾が、概略は次の通りである。最初に看護学生の看護職に関するレポートより152キーワードを抽出し、これらを1) 個人的資質、2) 看護職に望まれる態度・行動、または個人的な行動、3) 他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動、または社会的な行動、4) 専門的な看護技術、5) 専門倫理的な態度・行動、または看護倫理の5つに分類した¹⁾。入学後4ヶ月目の看護学生、就職して3-4か月の新人看護師、2-3年目の年長看護師にアンケートを送り、各人に各カテゴリー

内の10の重要な語句を選んでもらい、学生や看護師が最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていくという操作を行った。これにより選ばれたキーワードに10段階の得点差を与える事になる。アンケートは、本学の卒後2ヶ月の新人看護師59名、2年目の看護師58名、卒後3年目の看護師63名に送られた。看護学科1年生は99名であった。なお倫理的配慮としては、本研究は西南女学院大学の倫理審査委員会で承認されたものである。

今回の分析対象は第3カテゴリーの「他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動」、第4カテゴリーの「専門的な看護技術」、および第5カテゴリーの「専門倫理的な態度・行動」、の3つである。各キーワード番号順に得点を抽出、総和し、各キーワードの総得点を学生回答数で除して学生平均値を求め、同操作を新人看護師、年長看護師についても行き、各キーワードの平均値とした。この平均値を各グループ間で比較し、比の数値が高いものほどそのグループでの価値観が高まるものと推定した。

2) 学生と新人看護師との間で価値観の差があるキーワードの分析

得点の平均値にて、新人看護師得点/学生得点の比が最も高いものから降順に並べると、学生に比し新人看護師が重要と考える概念の順番が明らかとなる。一方、昇順に並べるとその比が最も低いものは学生が新人看護師に比して重要と考えるものである。この操作によって平均値の差の顕著なキーワードが抽出される。ただし、比のみではサンプル数の少ないものや低得点のものまでも重要なキーワードと誤られる。したがって、平均値が殆ど同様のもの以外は全てのキーワードについて統計学的に分析・検定した。

3) 学生と年長看護師とで価値観の差があるキーワードの分析

上と同様、年長看護師得点/学生得点の比が最も高いものから降順に並べると学生に比し年長看護師が重要と考える概念の順番が明らかとなる。一方、その比が最も低いものは学生が年長看護師に比して重要と考えるものである。この操作によって平均値の差の顕著なキーワードが抽出される。2)と類似の方法で全てのキーワードについて分析・検定した。

4) 統計学的検定法

3つのカテゴリーのすべてのキーワードの、学生平均値と新人看護師平均値および看護師平均値の間に差があるかどうかは平均値の検定であるため、一元配置分散分析によって行った。分散分析は統計ソフト (SPSS for Windows) を用いて行い、有意水準5%で検定した。

結果

1) アンケートの回答数

1年を超えて看護経験のある看護師、すなわち2年

目または3年目の看護師による回答は36通であった。就職後、2-3か月の看護師からの回答は30通であった。本学看護学科1年生からの回答は22通であった。この中には看護職の経験のある学生はいなかった。

2) 第3カテゴリー、「他者と良い関係を築くうえで必要な態度・行動」についての結果

表1は5カテゴリーのうちの第3カテゴリー、「他者と良い関係を築くうえで必要な態度・行動」、を表す36キーワードまたは名詞句についての結果である。各キーワードの、学生、新人看護師、年長看護師からの得点の平均値を、学生と新人看護師および学生と年長看護師の間で分散分析している。表の第6列のよう

表1：カテゴリー3の「他者と良い関係を築くうえで必要な態度・行動」に関する36キーワードの学生、新人看護師、年長看護師による得点表と有意差

番号	内容	学生平均	新看平均	看護師平均	有意差	
					学生・新看護師	学生・年長看護師
1	心くばり	5.2727	2.7	3.6944	NS	NS
2	心をこめる	2.3181	1	2	NS	NS
3	約束を守る	1.909	3.2333	3.0833	NS	NS
4	言葉遣い (敬語丁寧語)	3.5909	3.5333	2.9722	NS	NS
5	相手の人格尊重	1.8636	2.0333	4.25	NS	p=0.0319
6	礼儀	3.1363	2.4	2.1388	NS	NS
7	相手を理解共感する	3.1818	1.8	2.5833	NS	NS
8	協力して仕事する	2.1363	1.1666	2.3888	NS	NS
9	感情コントロール	2.2727	0.5666	0.3055	p=0.0230*	p=0.0031*
10	信頼感をきずく	3.409	1.7666	3.5833	NS	NS
11	責任を持つ	4.1818	4.4333	5.25	NS	NS
12	組織の一員の自覚	0.7272	2.5333	1.1944	NS	NS
13	職場での良き人間関係	1.6363	1.4333	1.9722	NS	NS
14	挨拶する	2.2727	1.8	2.25	NS	NS
15	返事する	0.2272	1.1	0.9166	NS	NS
16	緊張感を持つ	0.1818	1.3333	0.8333	NS	NS
17	自己紹介	0.2727	0.2666	0.5	NS	NS
18	こそこそ話をしない	0.3181	0.1666	0	NS	NS
19	周囲状況の正しい判断	2.0909	1.7	1.6388	NS	NS
20	臨機応変に対処する	1.409	2.7333	1.7222	NS	NS
21	話をよく聞く	1.5	0.8333	1.8333	NS	NS
22	冷静	1.0909	0.5666	0.6666	NS	NS
23	スタッフと目を合わせ連絡	0.1818	0.1333	0	NS	NS
24	声や語調を落ち着かす	0.409	0.7	0.1388	NS	NS
25	不明点の質問する	0.909	2.1	1.0277	NS	NS
26	穏やかな口調	0.5	0.3333	0.9444	NS	NS
27	迷惑をかけない	0	0.4	0.25	NS	NS
28	声をかける	1.2272	1.2	0.4722	NS	NS
29	指示は復唱する	1.1363	1.6333	0.5833	NS	NS
30	うわさ話をしない	0.409	0.3666	0.0555	NS	NS
31	親切な行為	0	0.0666	0.2777	NS	NS
32	時間を守る	1.8181	2.4333	1.1666	NS	NS
33	記録報告の速さ正確さ	1.0909	1.4666	0.8333	NS	NS
34	先輩への尊敬	0.4545	0.1	0.6111	NS	NS
35	公私のけじめをつける	1.5	1.9666	0.9166	NS	NS
36	他職種との連携	0.3181	0.5	1.5277	NS	p=0.0314

注) キーワードごとに得点を抽出、総和し、学生回答数の22で除して平均値とし、有効数字5桁以下切り捨てにより第3列に記載。以下、新人看護師、年長看護師についても同様の操作を行い順に記載した。第6列目に学生と新人看護師の有意差の有無を記載し、分散分析での有意検定のp値を記載している。最右列には同様に学生と年長看護師の有意差の有無を記載した。*印は学生の平均値が上回って有意差が得られたものである。

に、学生と新人看護師の間で有意差が証明できたものは「感情コントロール」のみであり、これは学生が重視する価値観である。一方、第7列のように、学生と年長看護師の間で有意差が証明できたものは3つで、年長看護師が重視するものとして「相手の人格の尊重」「他職種との連携」の2つと、学生が重視する「感情コントロール」であった。「感情コントロール」は新人看護師と年長看護師共に学生との間で有意差が見出された。有意差の有無に関せず、年長看護師がことに高い点を与えたものは、責任を持つ、他職種との連携、相手の人格尊重、心くばり、信頼感を築く、約束を守る、などであった。

3) 第4 カテゴリー、「専門的な看護技術」についての結果

表2は第4 カテゴリー、「専門的な看護技術」に関する概念の24キーワードについての分析の結果である。分散分析により、各キーワードが得た学生、新人看護師、年長看護師からの配点の平均値の有意差を決定した。表の第6列のように、学生と新人看護師の間

で有意差が証明できたものは「了解なしの行為をしない」であり、これは新人看護師の重要度が有意に高かった。また、学生の重要度が高いものは、「環境を整える」と「スキンシップを用いる」であった。一方、学生と2-3年目の年長看護師の間で有意差のあるものは、「感染予防」と「疼痛を緩和する」であり、前者は学生が重視し、後者は年長看護師が重視していた。この範疇で年長看護師が高い配点を与えたものは、患者を（こまやかに）観察する、医療ミスをしない、患者を見て（目を見て）話す、了解なしの行為をしない、患者第一に業務進行を二義的に、対話する、環境を整える（騒音、温度、光）、患者に理解できる言葉で話す、などであった。

4) 第5 カテゴリー、「専門倫理的な態度・行動」についての結果

表3は5 カテゴリーのうちの第5 カテゴリー、「専門倫理的な態度・行動」に関する44キーワードについての統計的分析の結果である。上述と同様、この範疇で学生と新人看護師の間で有意差のあるものは、「個々

表2：カテゴリー4の「専門的な看護技術」に関する看護職に望まれる行動・態度に関する26キーワードの学生、新人看護師、年長看護師による得点表と有意差

番号	内容	学生平均	新看平均	看護師平均	有意差	
					学生・新看護師	学生・年長看護師
1	非マニュアル的対応をする	0.5909	0.4666	0.8055	NS	NS
2	金品を受けない	0.6818	0.4333	0.7179	NS	NS
3	了解なしの行為をしない	2.7727	5.3666	4.0555	P=0.0117	NS
4	患者を見て（目を見て）話す	4.1818	4.5333	4.8888	NS	NS
5	対話する	2.6363	1.3	3.2777	NS	NS
6	感染予防	4.3818	4.3666	2.1666	NS	p=0.0144*
7	業務進行を二義的に(患者第一)	2.0454	3	3.7777	NS	NS
8	ナースコールに答える	1.1363	1.3666	1.25	NS	NS
9	患者を（こまやかに）観察する	6.7727	5.2333	5.4166	NS	NS
10	椅子に座って話す(目の高さ)	1.5909	1.2	1.6388	NS	NS
11	環境を整える(騒音、温度、光)	3.409	1.5333	3.0833	p=0.0080*	NS
12	患者に理解できる言葉	2.409	3.1333	3.0833	NS	NS
13	患者の名前を覚える	1.5909	2.7666	1.3214	NS	NS
14	指示メモをとる	1.8181	2.2333	0.8055	NS	NS
15	ボディメカニクスを利用する	1	0.9	1.0277	NS	NS
16	汚職しない	0.3181	0.0333	0.0833	NS	NS
17	スキンシップを用いる	2.0545	0.6666	1.7777	p=0.0494*	NS
18	回復障害、他者迷惑行為を止める	1.1363	0.5666	0.6666	NS	NS
19	後輩を教育する	0.3181	0.1333	0.3055	NS	NS
20	処置中羞恥心の尊重	2.5	2.2666	2.1944	NS	NS
21	患者関係の会話を大声でしない	2.8181	1.6333	2.4166	NS	NS
22	疼痛を緩和する	1.1818	1.5	2.8611	NS	P=0.0479
23	集団の疎外から患者を保護する	1.3181	0.6	0.3888	NS	NS
24	医療ミスをしない	6.5909	6.1333	5.0555	NS	NS

注) *印は学生の平均値が上回って有意差が得られたものである。

表3：カテゴリー5の「専門倫理的な態度・行動」に関する44キーワードの学生、新人看護師、年長看護師による得点表と有意差

番号	内容	学生平均	新看平均	看護師平均	有意差	
					学生・新看護師	学生・年長看護師
1	守秘する	6.5	6.2333	5.1111	NS	NS
2	人権尊重または差別しない	3.409	2.1333	2.5777	NS	NS
3	患者の立場にたつ	5.2272	3.7333	5.2222	NS	NS
4	専門知識を増す	1.3636	3.1333	2.6111	NS	NS
5	安らぎ（安楽）の提供	2.3636	1.2333	2.0555	NS	NS
6	安心を与える（不安を無くする）	3.1818	3.4	3.5555	NS	NS
7	感情や話を受け止める	1.6818	2.4666	3.6111	NS	p=0.0366
8	丁寧な（温かい）ケア	2	1.4666	2.0555	NS	NS
9	正しい技術	1.5909	1.7666	0.7777	NS	NS
10	技術の向上	1.3636	2.0666	1.1666	NS	NS
11	患者の可能性を見つける	1.1363	0.5666	0.4166	NS	NS
12	専門知識を使う	0.0909	1.1666	0.5277	NS	NS
13	患者に関心をもつ	0.0909	1.1	0.5277	NS	NS
14	生命の尊重	2.1363	0.9666	1.1111	NS	NS
15	生活の質を上げる	0.9545	0.7	0.9722	NS	NS
16	援助的態度	0.0454	0.5	0.1111	NS	NS
17	いたわりの態度	0.5	0	0.0454	NS	NS
18	奉仕精神	0.3181	0.0666	0.75	NS	NS
19	尊厳の尊重	0.7272	0.1333	0.4722	NS	NS
20	倫理的判断	0.0454	0.3333	0.0454	NS	NS
21	患者との良き人間関係をつくる	1.5909	1.5	1.4722	NS	NS
22	患者の病状を把握する	1.8181	1.3666	1.2777	NS	NS
23	患者の励みになる言葉づかい	0.4545	0.1	0.3055	NS	NS
24	自尊心（羞恥心）の尊重	0.5909	1.2666	1.5277	NS	NS
25	誠意をもって接する	1	1.6666	1.3055	NS	NS
26	個々の患者に合わせた対応	0.6818	2.9	1.6944	p=0.0056	NS
27	患者の自立（自己管理）を助ける	1.8181	1.1666	1.3611	NS	NS
28	患者に受け入れられやすい行動	0.3181	0.1666	0.2222	NS	NS
29	基本をしっかりする	1.3181	1.0333	0.8888	NS	NS
30	謙虚に患者に接する	0.3636	0.5	1.3055	NS	NS
31	医師患者の架け橋	1.409	0.1333	0.6111	p=0.0213*	NS
32	高度の看護の提供	0.8636	0.1	0.5277	NS	NS
33	看護制度の確立に活動する	0.0454	0	0.0454	NS	NS
34	日常感覚の尊重	0.0454	0.3	0.25	NS	NS
35	医療と養護の専門家となる	0.3181	0.26	0.3055	NS	NS
36	患者の心を開かせる言動や気持ち	0.7727	0.1333	0.2777	NS	NS
37	患者の多くの個人情報を得る	0.1363	0	0.5	NS	NS
38	資格職であることの自覚	0.6818	0.2	0.5555	NS	NS
39	患者の心に目を向ける	2.5	1	1.5277	NS	NS
40	いやしの気持ちを持つ	0.0454	0.3333	0.6666	NS	NS
41	ニーズの把握と正確な対応	0.9545	2.5666	2.1944	NS	NS
42	意志感情を自然に表出させる援助	0.7727	1.4	0.6944	NS	NS
43	患者の代弁者となる	0.409	0	0.0277	NS	NS
44	必要不必要なケアを見分ける	1.3636	1.0333	0.6666	NS	NS

注）*印は学生の平均値が上回って有意差が得られたものである。

の患者に合わせた対応」と「医師、患者の架け橋」であり、前者は新人看護師の重要度が高く、後者は学生の重要度が高かった。一方、学生と年長看護師の間で有意差があるものは、「患者の感情や話しを受け止める」ただ一つであり、年長看護師の重要度が高かった。

年長看護師が特に高い点を与えたキーワードは患者の立場にたつ、守秘する、患者の感情や話を受け止める、安心を与える（不安を無くする）、専門知識を増す、人権尊重または差別しない、等であった。

考 察

看護のアイデンティティーを明確なものとし、教育に役立てようと10報にわたって分析してきた。全てのカテゴリー中より年長看護師がきわめて重視し、また、新人看護師も類似の高い価値を置くものを選び出すと表4のとおりであった。

第1の個人的資質のカテゴリーでは、自らの役割を理解する、最善をつくそうという気持ち、優しさ、一般常識を身につける、誠実、心の安静などであった。第2の看護職に望まれる態度・行動のカテゴリーでは、自己研鑽、良い友人を持つ、正確な情報を得る、物事に取り組む姿勢などであった。第3の他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動のカテゴリーでは、責任を持つ、他職種との連携、相手の人格尊重、心くばり、信頼感を築く、約束を守る、などであった。第4の専門的な看護技術のカテゴリーでは、患者を（こまやかに）観察する、医療ミスをしなない、患者を見て（目を見て）話す、了解なしの行為をしなない、患者第一に業務進行を二義的に、対話する、環境を整える（騒音、温度、光）、患者に理解できる言葉で話す、疼痛を緩和するなどであった。第5の専門倫理的な態度・行動のカテゴリーでは、患者の立場にたつ、守秘する、患者の感情や話を受け止める、安心を与える（不安を無くする）、専門知識を増す、人権尊重または差別しない、等であった。

これらは看護職の核（Core）となる概念と考えられ、看護のアイデンティティーの根幹をなすものであろう。全てを完全に備えることは困難を伴うに違いな

いが、これらは明らかに臨床看護師の努力目標となる。従って、この研究により、看護生涯教育の行動目標（Specific Behavioral Objective, SBO）といえるものの一部または全部が、根拠をもって提出されたといえることができる。さらに整理・統合されたこれらの目標のもとに、細かな看護上の問題の対応表とアセスメントの表を作成すれば、看護生涯教育のカリキュラムを作成することも可能となるであろう。そのカリキュラム構成は医療の生涯教育カリキュラム¹⁰⁾に類似するが、内容は看護に関する専門的なものになるに違いない。

もう一つのこの研究の収穫は、看護学生はそれほど認識していないが新人看護師や年長看護師が有意差をもって重要と考える項目が発見されたことである。表5にまとめたように、第1の資質のカテゴリーでは「自己省察」が、第2の行動のカテゴリーでは「自己研鑽」が、第3の社会的行動では「相手の人格の尊重」と「他職種との連携」が、第4の看護技術のカテゴリーでは「了解なしの行為をしなない」と「疼痛を緩和する」が、第5の倫理カテゴリーでは「個々の患者に合わせた対応」と「患者の感情や話を受け止める」がそれらである。これら8項目は看護職を実際に遂行して後に認識できる重要なものと考えられる。

最近、山内ら¹¹⁾は看護系学生の職業的アイデンティティーの形成過程をライフストーリー研究により分析し、看護職が自分の仕事であるという感覚を得ることが重要であるとしている。まさに上記のキーワードの含む概念を大学の学習の場で習得することが重要と考えられる。さらに、坂村ら¹²⁾は新卒看護師の職業的

表4 看護のアイデンティティーの核をなすものと考えられるキーワード

1. 個人的資質	2. 看護職に望まれる態度・行動	3. 他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動
自らの役割を理解する 最善をつくそうという気持ち 優しさ 一般常識を身につける 誠実 心の安静	自己研鑽 良い友人を持つ 正確な情報を得る 物事に取り組む姿勢	責任を持つ 他職種との連携 相手の人格尊重 心くばり 信頼感を築く 約束を守る
4. 専門的な看護技術	5. 専門倫理的な態度・行動	
患者を（こまやかに）観察する 医療ミスをしなない 患者を見て（目を見て）話す 了解なしの行為をしなない 患者第一に業務進行を二義的に 対話する 環境を整える（騒音、温度、光） 患者に理解できる言葉で話す 疼痛を緩和する	患者の立場にたつ 守秘する 患者の感情や話を受け止める 安心を与える（不安を無くする） 専門知識を増す 人権尊重または差別しない	

表5 看護師が学生と有意差を持って重視するキーワード

1. 個人的資質 自己省察
2. 看護職に望まれる態度・行動 自己研鑽
3. 他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動 相手の人格の尊重 他職種との連携
4. 専門的な看護技術 了解なしの行為をしない 疼痛を緩和する
5. 専門倫理的な態度・行動 個々の患者に合わせた対応 患者の感情や話しを受け止める

アイデンティティの形成を半構成的インタビューで分析した。新卒看護師は、先輩看護師と共にする体験や看護職上の看護体験、自立感としては看護援助ができたこと、責任の重さやチームの一員としての体験、等でアイデンティティの形成が行われるとしている。これらも表4、表5の項目を生涯教育の中で一つ一つが確認することで達成できるものと考えられる。

看護大学では価値観が多様化した学生たちの教育に苦慮することも多くなった。我々教員は4年の学生教育の中で看護のアイデンティティを学生に芽生えさせ看護を実践できるよう丁寧にケアする実際の教育方法を模索するべきであろう。

以上、看護教育に関連した研究を終了した。しかし、良い看護を続けるためには教育では解決が困難で、しかも重要なものもある。たとえば、看護師個人の健康や運動能力、出来事に対する緊急反応パターン、自らの根源的存在のとらえ方、その個人をとりまく人間環境などである。これらについても考察し、解決を図るための方策を探るのも我々の責務であろう。

文 献

1) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子：看護のアイデンティティ：看護大学生は看護職をどのようにとらえているか。西南女学院大学紀要. 5:1-8, 2001

2) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その2：看護の資質に

ついての大学生と看護婦の価値観の相違とその意味. 西南女学院大学紀要. 6:10-17, 2002

3) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その3：看護の行動パターンについての大学生と看護師の価値観の相違とその意味. 西南女学院大学紀要. 7:19-26, 2003

4) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その4：看護職に重要な社会生活パターンについての大学生と看護師の価値観の相違とその意味. 西南女学院大学紀要. 8:1-8, 2004

5) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その5：看護技術に関する大学生と看護師の価値観の相違とその意味. 西南女学院大学紀要. 9:1-8, 2005

6) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その6：看護倫理に関する大学生と看護師の価値観の相違とその意味. 西南女学院大学紀要. 10:1-9, 2006

7) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その7：看護のアイデンティティの自覚度を測定する簡易な質問表. 西南女学院大学紀要. 11:1-8, 2007

8) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その8：新人看護師の看護資質の価値観は学生に比して年長の看護師の価値観に類似する. 西南女学院大学紀要. 12:1-7, 2008

9) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その9：看護職に望まれる態度・行動についての看護学生、新人看護師、年長看護師3集団の価値観の分析. 西南女学院大学紀要. 13:1-7, 2009

10) 日本医師会編：日本医師会生涯教育カリキュラム2009. 図書印刷株式会社. 東京. 2009, <http://www.med.or.jp/cme/syogai/smoozy/index.html>

11) 山内栄子、松本葉子、山本雅子：現代の看護系大学生の学生生活における職業的アイデンティティの形成過程. 日本看護学研究会誌. 18(3):11-24, 2009

12) 坂村八恵、岡本裕子、坪井敬子、秋山智、石井俊行：新卒看護師の専門職者としての自立体験－8名の大卒看護師へのインタビューを通して. 広島国際大学看護学ジャーナル. 6(1):47-56, 2008

Identity of Nursing (final part): Key Words with Educational Potential Obtained from Analysis of Student Nurses, New Nurses and Elder Nurses Who Answered Our Questionnaire on Nursing.

Jiro Kudo*, Hideko Oda*, Keiko Ueno**, Keiko Kubota***, Naoko Ito*

<Abstract>

The purpose of this research is to clarify the concept of *nursing identity* and to educate student nurses based on that clarified identity. We previously showed the results of our analysis of our survey concerned with nursing identity, using data obtained from student nurses, new nurses, and elder nurses in nine reports. In this paper we compare the estimation of the last three categories among the above three groups using one-way analysis of variance in a similar way to the 9th report.

Thirty-six key words in the third category, which is concerned with social life relating to the nursing profession, were analyzed among three groups. Between new nurses and student nurses, “to control one’s feelings” was significantly more highly evaluated by students. Between elder nurses and student nurses, elder nurses significantly evaluated “to respect other people’s personality,” and “cooperation with other medical staff” more highly, while “to control one’s feelings” was significantly evaluated higher by students.

Twenty-four key words in the fourth category, which is concerned with skills relating to the nursing profession, were analyzed among three groups. Between new nurses and student nurses, “to follow informed consent” was significantly evaluated by new nurses and “to create an environment” and “to offer physical contact” were significantly evaluated by students. Between elder nurses and student nurses, “relief of pain” was significantly more highly evaluated by elder nurses and, “to protect from infection” was significantly more highly evaluated by students.

Finally, 44 key words in the fifth category, which is concerned with ethics on nursing profession, were analyzed among 3 groups. Between new nurses and student nurses, “to consider a patient’s individuality” was significantly more highly evaluated by new nurses and “to act as a bridge between doctor and patient” was significantly evaluated more highly by students. Between elder nurses and student nurses, only “to consider a patient’s emotions and complaints” was significantly evaluated by elder nurses.

Based on our whole series of studies, we consider that the 31 key words in all categories highly evaluated by nurses to be factors comprising the core of the identity of nursing, and also, the eight key words which were significantly evaluated higher by nurses than student nurses to have potential for university-level nursing education.

Keywords: nursing profession, identity, nursing education, student nurses, questionnaire on nursing

* Professor in the Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University

** Instructor in the Division of Midwifery, Seinan Jo Gakuin University

*** Professor in the Fukuoka Jogakuin Nursing College